

海蔵小学校が四日市一番!!



昨年九月二十二日の海蔵小学校運動会です。クラス数二十八、児童数八百三十二名(十二月現在)、平成二十四年度、市内で児童数最多の小学校になりました。

平成二十一年頃をピークに、県、市の人口が減る中で海蔵地区では世帯数で二百余、人口で三百余増えています。秋の地区運動会で社協広報部が行ったアンケートでは回答者百八名のうち五十二%がこの二十年の間に地区外、県外からこの地区に移り住まれた方々とのことでした。その理由を尋ねると「交通・買い物の便が良く、病院・学校までの距離が近い。」などの答えが多く、「海蔵川や田畑などの自然が多くのだかなところが有り住環境のバランスが良い。また、地域活動が活発でとても良い。昔からの住民と新しい住民がうまくおつきあいできたらもっと良い町になると思う。」といった感想もいただきました。昭和五十年代後半から駅まで徒歩圏内の工場や倉庫、事業所の社宅用地が一戸建て、集合住宅用に転用されていたことも理由の一つかもしれません。一方心配なこと、地区に望むことは、との設問には、「交通量が増えたこと。子どもが遊べる公園がもっとあるとよい。」という意見が圧倒的でした。

今一度、子どもたちのふるさとなるこの海蔵地区を、古くから住む人も、新しく家族の安住の地を選んだ人も、歩いて、見て、新しい発見をしてみませんか。

シリーズ

おばちゃま探検隊

海蔵小学校訪問



今回の訪問先は、市内一児童数が多くなった海蔵小学校です。

11月13日校長室をお訪ねしました。

上浦健治校長は20数年前、新任教師として赴任されたのが海蔵小学校で、以後6年間この地で教鞭を取られたとのこと。当時の学校の様子や地区の環境もよくご存知で、隊員とも思わず昔話に花を咲かせました。以下は先生へのインタビューの内容です。

☆児童数が増加したことによる

○良いこと

・活気があってにぎやかなこと ・お互いに切磋琢磨できる環境であること ・ダイナミックな活動ができること。

○心配なこと

・施設面で余裕がないこと。空いている教室がないので来年度の新入生数が、今年と変わらず5クラスで収まると聞いてホッとしている。
・校舎の老朽化も心配だが、耐震工事は完了している。

○先生方の目が行き届かないのではとの質問には

・今年度から教頭先生が二人、養護教諭も二人配置になっている。
また特別支援教育のための支援員に来てもらっている。
・少人数授業や生徒指導を充実させるための教員が増員されている。
・特別支援学級へは介助員が配置されている。
など「大丈夫」とのこと、おばちゃまは安心。



☆コミュニティースクールについてのお話がありました。

コミュニティースクールとは、地域とともにある学校作りを目指して双方が協働して行く制度のことです。

平成24年度には海蔵小学校が四日市版コミュニティースクールのひとつに指定されたことによって、地区連合自治会長等の地域関係者が委員となって当校に設けられた「運営協議会」においてさまざまなことが協議されています。現在、夏休み中の花壇の水遣り、登校時の裏門の旗当番、通学路点検、家庭科授業やクラブ活動の折の地域の人による協力などが実施されていて、色々とアドバイスもあり、学校としてはとても感謝しているということでした。

地域が学校と協力し合っていくことが、将来の海蔵地区を担う子どもたちのために、大変重要なことであろうとの実感を持って校長室を後にしました。

校長インタビューに先んじて、10月30日、6年生の修学旅行中に実施された、「給食試食会」も探検して来ました。1年生児童の保護者対象の催しでしたが、若いお母さんたちに溶け込んで、勉強させていただきました。



給食の時間を見学しました。その日のメニューは「ビビンバ、豆腐とわかめのスープ、牛乳」でした。子どもたちにも人気が高いメニューでとてもおいしく、早ばやと「完食」させてもらいました。食欲のある子たちは並んでおかわりをしていました。食べ残しを減らす工夫の一つになるのでしょうか。

☆栄養士さんのお話 (児童数が増加した結果)

○良いこと

- ・大量に作る煮込み料理がおいしくなる。これは大いにうなずきました。

○苦労していること

- ・野菜のほとんどの物を手で切っているの、調理員さんが大変で、増員して現在11名。
- ・アレルギー体質の子の数も増加したため、(20名くらい)配慮が大変。
- ・食べ残しの量の増加。何十キロにもなることもある。

○隊員が学んだこと

- ・給食一食で一日に必要な栄養の三分の一を摂れるようになっている。
- ・カルシウム、ビタミン類は必要量の二分の一が摂れるようになっている。
- ・家庭において、好き嫌いを無くす努力をすることが、大変重要である。

年間食事回数	1095回
給食回数	190回
家庭での食事	905回

家庭での食事の大切さは一目瞭然、そこで

- 1, 調理の工夫
 - 2, 食事中は叱らない
 - 3, 調理、配膳を手伝わせる
- 等を毎日実践すること。

○その他

- ・食材については野菜、果物はなるべく地場産の物を使用するようにしている。
- ・月、水、金曜は米飯

☆養護の先生のお話

○毎月、延べ150人の子どもたちが保健室に来るが、その内の15%が朝ごはん抜きである。

○朝ごはん抜きでは、低体温となり、朝の排便も無いまま登校する。

◎とにかく早寝、早起きさせること。

◎休日はしっかりと休ませることによって、週明けに元気に登校出来る。

6年生が旅行中のため、5年生の子から牛乳パックを再生用に簡単に開く方法を教えてもらいました。残飯も肥料などへ再利用されるようエコにも気配りがなされていました。

平成の今、800余名の子どもたちが学び育つ海蔵小学校は、明治8年、教員2名、児童数130名で末永正福寺に開校し、明治12年、水車(現 浜一色町)に校舎建設、明治32年、現在地に新築、昭和20年戦災で全焼した校舎は、地区有志による「四日市市海蔵国民学校復興委員会」の支援を得て、昭和21年から23年にかけて再建され、昭和34年の伊勢湾台風による講堂の倒壊などを経て現在に至っています。(海蔵小学校創立百年誌より)



▲ビビンバ、豆腐とわかめのスープ、牛乳

